

2024 年度 高温ガス炉プラント研究会

第 7 回運営会議

議事録

高温ガス炉プラント研究会事務局

(株)桜門イノベーションリサーチ

1. 日時 : 2025 年 2 月 25 日 (月) 13:00~14:15

2. 形態 : オンライン会議 (ZOOM)

3. 運営会議メンバー (順不同・敬称略)

会 長 : 岡本 孝司 (東京大学)

会長代理 : 山本 一彦 (学術著作権協会)

会 員 : 諸菱 亮太 (大林組)、小林 智弘 (鹿島建設)、  
石垣 嘉信 (富士電機)、谷平 正典 (三菱重工業)  
(欠席) 持丸 雅典 (東芝エネルギーシステムズ)、森 由佳 (清水建設)、  
濱本 真平 (Blossom Energy)

T A : 都筑 和泰 (エネルギー総合工学研究所)

事務局 : 石塚 冬樹 (桜門イノベーションリサーチ)

4. 配付資料

運営 7-0 2024 年度 高温ガス炉プラント研究会 第 7 回運営会議 議事次第

運営 7-1 国内外動向調査報告 (最終)

運営 7-2a RAHP ニュースレターNo. 24 会員専用 (案)

運営 7-2b RAHP ニュースレターNo. 24 一般公開用 (案)

運営 7-3 報告書目次 (案)

運営 7-4 事務手続き及び今後のスケジュール

参考資料 2024 年度 第 6 回運営会議 議事録

## 5. 議事概要

### (1) 岡本会長あいさつ

- ・講演会は議論も活発で非常に有意義であった。プラント研究会は民間中心で、官主導と違う意義がある。
- ・第7次エネルギー基本計画のなかで高温ガス炉が明確に位置付けられたことは大きい。
- ・高温ガス炉の最初の実装はイギリスになると思われる。さまざまな技術的ハードルがあると思われるが、その実現を次につなげていきたい。
- ・本研究会も来年度に向けさらに活性化させたい。会員各位のご意見を聞きながら新しい活動にチャレンジしたい。ご協力のほどよろしくお願いします。

### (2) 国内外動向調査報告（最終）（都筑 TA）

#### 【説明】

- ・最終報告書の説明。国内外動向調査の総まとめとポイントについて説明。

### (3) 本年度のまとめ（事務局）

#### 【説明】

- ・ニュースレターNo. 24(案)  
第7次エネ基についての記述追加等。一般公開用は著作権を配慮して図表は表示せずリンク表示とした。
- ・報告書目次（案）  
資料集との位置付け。前文に HTTR 安全性実証試験成功を追記した。  
→異議なく2件承認。

#### 【事務手続き及び今後スケジュール】

- 2024 年度委託業務の請求書発行、2025 年度契約更新について説明。
- 2024 年度内支払いを要望される場合は連絡いただきたい。

### (4) 2025 年度の進め方について（意見交換）

#### ＜大学との連携について＞

- ・どこか一つの大学に特化し、または大学持ち回りで、その大学と学生を集めてプラント研究会とのコミュニケーションを取ってはどうか。研究会側は高温ガス炉を紹介し、大学側は各学生に5分程度でどういう研究をしているか、どういうことに興味を持っているかを紹介してもらうのはどうか。大学と特化して関係を深めたり、高温ガス炉について啓蒙していくのは重要と思う。
- ・原子力学会などで高温ガス炉についての安全基準、設計基準等を作成しており、関係者を呼んで講演ないし紹介してもらうのはどうか。例えば安全関係は更田氏、構造設計関係は澤先生がやっておられるので、このお二方に講演していただくのはどうか。  
→更田氏は春の原子力学会で発表しておられる。東京大学の所属になっている。  
→更田氏は私の同僚でいくらでも頼めるので、1月のセミナーか夏か、来年度計画に考えてよいと思う（会長）。

- 大学の学生を集めるのはいいアイデアだが、高温ガス炉を研究している学生の数自体が少なく、高温ガス炉を知ってもらうという趣旨になると思う。行くとすれば福井大学と思う。
- 直接高温ガス炉をやってなくとも原子力関連の福井大学学生と、今年度も来ていただいた後藤先生と石垣先生を中心に 20~30 人集まれば最高だし、10 人でもいいと思う。ウェブでもいい。
- こちらから福井大学に行くことも考えられる。手間や費用の問題もあるが、1 月のセミナーを福井大学で行うという選択肢もある。
- 昔京都大学とか東北大学で行ったことはある。講演会を各大学で持ち回りすることもある。旅費は会社持ちとしていただくとしても。どの程度聴講客が集まるかという問題はある。
- 学生を集めるには単位がつくようにすれば効果がある。単位がつかないと、先生の目が届く範囲の研究室メンバーにとどまり、大人数の集客は期待できない。
- 先方でのセミナー開催は理想的だが、福井大学など受け入れ側の準備が大変。どれだけ聴講者が集まるかも問題。
- 場所を変えるのもいい。東京だと海洋大とか早稲田でやったことがある。先生に頼めば会場は何とかなる。
- ・ 2024 年度は 9 月の情報交流会議と 1 月の定期講演会の 2 つ山があった。2025 年度も 2 つ山を作ってどう配分するか。年度初めに方向性を定めて動き始める必要がある。
- ・ 方向性について皆さんの意見を聞かせていただきたい。
  - いきなりセミナーとか講演会はハードルが高い。取り組みやすい形態で一回やってみてその次を考えるのがいいと思う。
  - 福井大学はいいと思う。どこかの大学で行うもいいが、どのような形式にするかイメージが明確でない。まずは実行しやすい形でやってみるというのがいい。
  - 複数の大学ではなく福井大学に焦点をあてるのはいいと思う。高温ガス炉に限定せず、原子力関係で何か意見交換できればと思う、研究会側の動きの紹介から進めるといい。
- ・ ウェブでもいいが、やはり対面がいいと思う。
  - こちらからどこかの大学に出かけるのはいいが福井は遠い。東京で開催し、福井の学生を招く方法も考えられる。
  - 東京都内の別の場所で行い、そこに福井大学の学生さんと呼び、原子力学科がある大学の学生に参加してもらい高温ガス炉を紹介する形はどうか。昔早稲田でやった感じ。
  - 定期講演会の場所について、例年の講演会に学生がほとんど来ておらず、場所を変える効果はどうか。むしろ特定の大学に絞って呼ぶなり行くなりした方がいいと思う。人数にもより予算の限界もあるが。
  - 福井からだと 1 人 3 万はかかる。5 人なのか 10 人なのか、いずれにしろ予算化は必要になる。
- ・ いくつかの選択肢を作り、5 月の第 1 回運営会議で煮詰めたい。

＜西村洋亮氏の運営会議オブザーバー就任について＞

- ・国内外動向調査担当の西村洋亮氏が、4月より東京大学助教に就任されることが報告された。それに伴い西村氏に運営会議常任オブザーバーとなつていただくことが提案され、その場で承認された。
- ・エネ総研からの調査委託は兼業規定等を勘案し、適切な発注形態とする必要がある。

(5) 2024 年度閉会挨拶（会長）

- ・年度末の忙しいなかお集まりいただき、新しいアイデアを含めて研究会活性化のアイデアをいただきありがとうございます。学生を含めてアクティビティを活性化していくことは重要と思う。
- ・外部講師が大学に来て高温ガス炉の特別講演をするのは、担当教員が講義するのと別の意義があり、学生へのインパクトが違う。
- ・東北地方で大きな動きがあるが、日本全体としての動きとしてはまだまだと思う。いろいろなキーパーソンに声をかけつつ、活性化できるといい。
- ・井戸田氏主催で3月に予定している中国ツアーが石島湾でのトラブルでキャンセルになった。3ヶ月に1回ぐらい大きなトラブルがありなかなかスムーズに動いていない。出力 400MW (200×2) の設備で、トラブルはある程度公開されているが詳細不明な部分もあり、国際会議等により討論できればと思う。
- ・井戸田氏は7月にサウジアラビアでワークショップを行うことを企画し始めている。サウジアラビアは原子力発電所について韓国と商談中との話もある。砂漠の国では高温ガス炉は有効と思われ、冷却水を砂漠の緑化につなげるなどのアイデアもあり得る。その意味で中東やサウジアラビアなどの比較的裕福な国々への連携は大切と思う。日程が確定したら本研究会メンバーへ話があるかもしれない。湾岸諸国とのセミナーという形になる予定で検討いただければと思う。
- ・更田氏は東大にいてもあれば六本木にいてもあるが、講演していただくことは可能。秋でも年明けの講演会でも候補として考えられる。加えて JAEA の進捗状況や大学の先生方にもきていただく形もあるかと思う。
- ・今年の原子力学会は北九州なので、昨年のように途中に寄るという訳にはいかないが、いろいろ企画を検討したい。次回運営会議（5月15日）までにご意見いただければと思う。

6. 次回運営会議日程

2025 年度第 1 回運営会議 5 月 15 日（木）13:00～14:30（ZOOM）

＜議題＞

2025 年度の進め方について（方向性の検討）

国内外動向調査計画（案）

予算（案） 他

ー以上ー